文明九年圓乘石川郡吉藤村に建立、後金澤に出で今の地に居住したとある。初め東派であつたが、享和中西派に轉じた。二尊佛と書いた額があつたから、世にこの道場を二尊佛といふに至り、元祿六年の士帳にも、高儀町二尊佛近所などゝ書かれてゐる。

ニチイキ　日域　白山記に、御在所の東の谷に一寶池があり、人跡を通ぜぬが、唯日域聖人のみ嘗てその水を汲んだとある。日域は古事談に御厨池の水を汲んだ日奉として傳へるものゝことであらう。→ニツタイ　日奉。

ニチウン　日運　日蓮宗の僧。河北郡妙珍山寶乘寺十九代に居り、又金澤の四方山本藏寺を開き、讀經三千部に及んだ。寛永十九年二月十九日寂。

ニチエイ　日榮　日蓮宗の僧。羽咋郡瀧谷妙成寺三十四代の住持。妙義院と稱し、文化十三年三月七日六十四歳で歿した。

ニチオウ　日翁　日蓮宗の僧。日應又は陽翁ともいふ。楠流の兵法を傳へ、太平記理盡抄を講じた。寛永三年前田利常の德川家光に從うて上洛した時、その旅館に當てた本國寺の僧が、之を勸めて仕へしめた。是より日翁は金澤に來り、御唱衆に加へられ、祿三百石を受け、野田寺町に地を受けて法蓮寺を創め、後そこで寂した。法號は大蓮院權大僧都日翁大德。

ニチギ　日義　日蓮宗の僧。羽咋郡妙成寺二十代の住持。字は一如、妙境院と號し、攝州大坂の人。初め身延山知見院日暹に從ひ、後日傳の門人となり、正東山に學び、直に玄義を講じた。元祿二年妙成寺日遼の後を受け、十四年七月廿五日同郡飯山にて寂した。

ニチギ　日義　日蓮宗の僧。羽咋郡妙成寺三十九代に居り、大悳院と稱し、嘉永元年七月十三日越後で遷化した。

ニチゲン　日源　日蓮宗の僧。初め眞言に屬し、哲源律師といひ、羽咋郡麥生村なる法輪寺の主であつた。永仁中日像が同郡今濱に宿した時に、哲源之と法論を交へ、遂に舊衣を改めて、寺號を妙法輪寺、名を日源と稱し、舍主も亦眞言を捨て、日像から法華堂の家名を受けた。日源は元中三年(至德三)三月八日寂した。

ニチゴウ　日豪　日蓮宗の僧。羽咋郡妙成寺十六代の住持。慈雲院と號し、越前の人。前田利常の生母壽福院の子養する所といふ。寛永六年二月廿四日寂。

ニチジ　日慈　日蓮宗の僧。羽咋郡妙成寺十二代の住持。普賢院と號した。慶長五年五月六日寂。金澤の圓光寺も亦日慈の中興に係る。

ニチジ　日慈　日蓮宗の僧。羽咋郡妙成寺三十八代の住持。唯本院と稱し、天保八年七月二十一日七十歳を以て越後に寂した。

ニチジ　日治　日蓮宗の僧。金澤立像寺の開山で、蓮藏院と號した。學德共に高く、前田利家の歸依を受け、天正中金澤に妙布山立像寺を開き、寶林山妙感寺を小松に創めた。慶長十年八月寂。

ニチジツ　日實　日蓮宗の僧。羽咋郡妙成寺八代の住持。その傳を失ふ。

ニチジュ　日珠　日蓮宗の僧。羽咋郡妙成寺三十一代の住持。春池院と稱し、寛政十一年九月十八日寂。

ニチジュウ　日充　日蓮宗の僧。羽咋郡妙成寺十一代の住持。下總の產。精學偉德を以て稱せられ、天正年中晋山し、隱居後山內大鏡坊に居住したが、慶長七年七月十五日總州で示寂した。

ニチジュウ　日從　日蓮宗の僧。加賀の人。字は通心。信解院と號した。妙成寺日遼の門に出で、中村談林に學び、後水戸談林・六條談林に玄義を講じ、紀伊の蓮心寺・京都の妙覺寺に住し、本國寺二十七代の席に倚り、大僧都法印に叙せられ、寶永五年十二月五十九歳を以て寂した。

ニチジュウ　日從　日蓮宗の僧。羽咋郡妙成寺七代の住持。その傳を失ふ。

ニチジュン　日淳　日蓮宗の僧。羽咋郡妙成寺十四代の住持。上木氏。越前の人。前田利常の生母壽福院の兄である。慶長六年金澤經王寺の開祖となり、十三年妙成寺に晋山、在住八年の間に本堂及び番神堂を建立し、元和元年退隱し、山內に善住坊を創立して之に居り、二年三月十七日寂した。

ニチジョウ　日乘　日蓮宗の僧。初の名は乘微、羽咋郡町村の人で、石動山天平寺大宮坊の上首であつた。諸書或は滿藏とし又滿月ともするが、滿藏は乘微の坊號で、滿月は誤であらう。永仁中日像の佐渡から能登に至らんとした時、乘微同船して之と宗義を論じ、遂に膝を屈して名を日乘と改めた。二人乃ち相携へて七尾に上陸し、石動山に入つて衆徒に勸說したが、刀杖を以て追はれ、羽咋郡瀧谷に至つて造寺の地域を相した。後に金榮山妙成寺といふものこれで、日像を崇めて開山とし、日乘は二代に住した。日乘の弟僧都妙文は越中埴生八幡に在つて台密の徒であつたが、日乘の事を聞いて來歸し、法華の勢力益熾盛を加へた。妙文は後に越前脇本妙泰寺の開祖となつたものである。日乘妙成寺開基の後こゝにあること八十七年、天授六年(康曆二)六月廿七日世壽百十歳を以て唱題座化したと言はれる。日乘示寂の後に及び、毎歳六月妙成寺に三日の會式を設け、諸國の末寺群參して追福を祈り、之を寄合會(キゴウ)といふた。この時當住の寺主は、輿に乘じて客殿より本堂に至り、奏樂の輩列を爲して從ひ、中に螺を吹く者があつた。これは日乘が嘗て眞言の徒であつたことを表するものであるといふ。

ニチジョウ　日條　日蓮宗の僧。羽咋郡妙成寺十五代の住持。上木氏。前田利常の生母壽福院の甥である。正覺院と稱し、元和以降五重塔・祖師堂・三光堂・二王門・鐘樓を建立し、客殿を再興し、又宇出津の大乘寺、越中城端の寶乘寺、金澤の眞成寺・常福寺を開基し、妙正寺を中興した。日條又文句を中村檀林に講ずること凡そ八年、傍ら讃を善くしたが、後山內一林坊に退隱し、慶安三年九月廿三日寂した。

ニチゼン　日善　日蓮宗の僧。字は天素、興遠院と號した。俗姓は木村氏、加賀の人。十四歳の時龍華院日饒に師事し、後東遊して高崎談林に學ぶこと三十年、遂に心性院日遠の知遇を受けてその講主となつた。後山城鷹峰に隱れ、天和三年九月六日七十九歳で寂。

ニチゼン　日全　日蓮宗の僧。信命院と號し、備前の人。高岡の妙國寺、金澤の妙國寺及び富山の妙國寺を開いた。好んで難行苦修を積み、寛永元年正月一日神通川の畔で廿一日の斷食讀經を終り、水に入つて寂した。